

# ダルニー通信

62  
2011  
夏号



特集：助け合いの連鎖～支援することは支援されること～

● タイ・ラオス・カンボジアから寄付やメッセージが届きました。

書き損じハガキ支援校の活動紹介/Tポイント募金始まりました。



一般財団法人  
民際センター



タイ事務局長  
サンペット



民際センター理事長  
秋尾晃正

～海外事務所や子どもたち

# 日本・タイ・ラオ の人々の間に

支援することは

**秋尾** 3月11日に発生した東日本大震災は甚大な被害をもたらしました。この地震・津波被害に対してたくさんの企業、団体、個人が物資を送ったり、ボランティアが現地で救援活動を行ったりしました。民際センターではホームページ上で募金を呼びかけ、被災地に救援物資を送りました。さらに民際センターの海外事務所でも募金活動を実施したり、メッセージが届いたりしました。

**サンペット** タイでは、政府や企業、NGOだけではなく俳優や歌手、さらには一般の人々も募金活動をしました。タイ事務局 (EDFタイ) はホームページ上で募金を呼びかけ (写真下)、さらに東北地方の61学区すべてのダルニー奨学金担当者に募金をお願いする手紙を送りました。その結果、約130万円 (484,000パーツ) の寄付金が集まりました。(この寄付金は、長い間タイの奨学生を支援している陸前高田市立第一中学校に提供されました。関連写真下)

**カムヒア** ラオスでは、日本と関係のある企業や団体、個人が中心となってラオス・日本友好協会や日本大使館を通じて寄付をしました。ラオス事務局 (EDFラオ) のスタッフや家族・親戚もこぞって寄付をしました。そしてスタッフ一同「ガンバレ、日本」のメッセージを送りました (写真右上)。

**チャンディ** 町が津波に飲み込まれていく映像は本当にショッキングでした。カンボジアでは、個人や官民の組織などあらゆるレベルで日本大使館を通じて被災者に寄付をしました。カンボジア事務局 (EDFカンボジア) は、首都プノンペンで「日本NGOネットワーク」が主催した



募金を呼び掛けるタイ事務局のホームページ



陸前高田市立第一中学校の門副校長に寄付金を渡す秋尾

イベント「Pray for Japan=日本の被災者に祈りを捧げる集い」に参加して広場の掲示板に私たちのメッセージを掲げたり、奨学生が通う学校を訪問した際、その生徒たちに日本の被災者の話をし、メッセージを送ったりしました (写真右ページ下)。



被災者の方にメッセージを掲げるラオス事務局スタッフ

**秋尾** 「支援を受けている国」タイ、ラオス、カンボジアが今回、様々なレベルで支援をしよう、メッセージを送ろうと思った理由は何でしょうか？

**サンペット** 困っている時に支援をするのは、人間として当たり前の行為だと思います。まして、タイ東北地方の子どもたちを23年間支援していただいているのですから、今度は私たちができる限りのことをしたいと思ったのです。私たちは日本人にとっても親近感を持っています。

**カムヒア** 個人的には2年間日本に留学をし、多くの人に大変お世話になったので何かしたいと思いました。私は家族でチャリティーコンサートに行きました。ラオス事務局としては、たくさん子どもたちが支援を受けているので、そのお返しにメッセージを送ろうと思いました。

**チャンディ** カンボジアはポルポト前から、そしてその後は特に、日本から多大な支援を受けています。また、ダルニー奨学金を通じて、経済的に貧しい、たくさん子どもたちが学校に通えるようになりました。私たちのささやかな活動は、その感謝を表したものです。

**秋尾** 普段は支援を受けている側が支援者の困窮を見て、できる限りのことをする。「支援することは支援されること」ということがよくわかりました。こうした支え・支えられる双方向の関係が今後、さらに大きく育つような取り組みをしていきたいと思います。

からの寄付やメッセージ～

# ス・カンボジア 助け合いの連鎖

支援されること



ラオス事務局長  
カムヒア



カンボジア事務局長  
チャンディ

## NGO山形国際ボランティアセンターに 活動資金を寄付 被災地に救援物資も送りました

民際センターでは地震発生後、HP上で被災者救援の寄付を募り、皆様から322,500円のご寄付をいただきました（5月13日現在）。この中から、今回の震災で東北広域震災センターの事務局を担っている山形国際ボランティアセンター（IVY）に活動資金として20万円を寄付。さらに、IVYの依頼に基づき、2回に分けてTシャツ、歯磨きセット、文房具、ドライシャンプー（資生堂より提供）を送りました（送料26,850円）。ご寄付をありがとうございました。

**募金総額 322,500円、  
ありがとうございました。**

### 【メッセージ】

被災者の皆さんに対し、私たちは深い悲しみをいただいています。そして、日本人の皆さんにはいつも心からの親愛の情を感じています。私たちは日本の被災者の方のために祈ります。私たちは1つです。



被災者の方にメッセージを掲げるカンボジアの子どもたち

## 被災者の方にお見舞い申し上げます

一般財団法人民際センター理事長 秋尾 晃正

犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまには心よりお見舞いを申し上げます。鎌倉時代に書かれた鴨長明の「方丈記」には火災、竜巻、飢餓、地震の災害が書かれています。時代を経て、今は「つなみ」が世界語になり、日本をはじめとするいくつかの国々は原発という放射能災害の危険性がある利器を抱え、あたかも災害と背中合わせに生きている時代とも言えます。災害からの救済・再建にあたり、国家にしかできないこともありますが、緊急支援の段階だけではなく、より長期に渡った復興支援の段階でも「民」ができることは多いはずですが、特に、ドナーの方と被災したドナーの方の橋渡しをすることができないだろうかと思っております。その際にも引き続きご協力をお願いいたします。

カンボジアの  
奨学生コム

## ラオス・カンボジアで

## お父さんは難聴、月収は1,500円未満

小学校4年生のコムは奨学金をもらう前、学校を欠席しがちでした。働きに出てしまう両親に代わって、早朝から水汲みや朝食の準備、掃除や洗濯、弟の世話、家畜の餌やり、そして時々、両親の農作業などの手伝いをしていたからです。

コムの両親は小さな田んぼを持っていますが、5か月分のお米しか取れません。そのため、農閑期は仕事を見つけなければなりません。お父さんは難聴で耳がよく聞こえず、話すことにも困難を覚えます。そのため、農閑期に仕事を見つけることが難しい場合があります。こうした事情で家族の収入は低く、月収は1,100～1,400円程度です。食料が不足すると、食事の回数を減らしたり、教育にかかる費用を削ったりして何とか暮らしを立てています。コムが学校を欠席しがちだったのは、朝からずっと働く上に十分な食事ができないためと、学用品を購入する費用を家族に負担させたくないため、学校に通う意欲がなくなってしまったようです。

コムの家では1匹の豚を飼っています。お米がなくなって何日も食べるものがない状態が続き、これ以上食べないと危ないという時に、豚を売ってお米を得るためです。とはいえ、豚は売っても900円～1,350円程度にしかならず、家族の1か月分にも満たない量のお米しか購入できません。

4年生から奨学金をもらうようになり、コムは学校に通う意欲が湧いてきました。学用品の購入で家族に負担をかけることがないことに加えて、自分が奨学生に選ばれたこと、さらには自分を応援してくれる人が日本にいることが励ましになったからです。カンボジアでは奨学金は学用品が現物支給されますが、コムは提供された学用品の一部を双子のもう一人の妹と分けました。

コムが学校に通うようになって、お母さんはホッとしました。貧困から抜け出すには教育が必要とは分かっている、家族の重要な働き手である



奨学金をもらって、  
学校に通う意欲が

コムに、それでも「学校に行きなさい」とはなかなか言えなかったからです。「コムが学校に通う意欲を取り戻すことができました。奨学金はコムと娘の両方に使わせてもらっています。日本の支

# 支援を待つ子どもたち

ラオス：  
小2のキーと  
奨学生ファミリー



は51%となっています。この10年間で毎年7%以上の経済成長を達成しているカンボジア。しかし、経済発展の恩恵が地方にはまわらず、農村部の貧困は相変わらずです。

コムが家族が貧困から抜け出せるかどうかは分かりませんが、学校に通い始めたことで将来に一筋の光明が射したことは間違いありません。

## 安定した収入がなく、将来が不安

奨学金に応募している小2のキーの一日は、朝食の準備（モチ米を炊くこと）と水汲みで始まります。それに、幼い弟の世話もしなければなりません。それでも、キーはほとんど休むことなく学校に通っています。好きな科目は国語。そして、休み時間などに学校で友達と遊べるので、学校に通うことが大好きです。とくに籐で編んだ玉を足で蹴って、ネット越しに相手の陣地に入れるセパタクロと呼ばれるスポーツが大好きです。

お父さんとお母さんは、木材を運び出す仕事をしています。しかし、日雇いなので収入が安定しません。そのため、家畜を育てて売り、収入の足しにしています。家族の月収は1,700円程度です。食べるものが不足すると、家族で森や池に入り、タケノコや野草、カエルやカニ等を捕まえて、食べたり売ったりします。キーも一緒に行くことがあります。今日、明日の食べるものを探すのに必死です。

キーは将来、お医者さんになりたいと思っています。家族や近隣の人が病気になったり怪我をしたりしたら、治してあげたいと思うからです。お医者さんになるには、できるだけ長く勉強をしなければならない、しかし家族にはお金がない。それで、小3に進級するに際して奨学金に応募しましたが、中学は何としても卒業したいと思っています。お医者さんになるには、それ以後、どのぐらいまで勉強しなければならないのかは、キーには分かりません。

休みがちだった  
出てきました。

援者の方に感謝します。ありがとうございました」とお母さんは顔の前で手を合わせました。

2003-2004年のカンボジア教育省の統計によれば、小学校の卒業率は都市部で60%、地方で



コム家族（一番左がコム）



水を運ぶコム



キー（真ん中）と家族



ファミリー

## 足が悪いのに4キロ先の中学校に通えるか…

一方、すでに奨学金を支給されている14歳のファミリーは小学5年生。2人の兄のうちの1人は不発弾で腕を失いました。お父さんが亡くなったこともあり、兄たちは小学校を卒業することができませんでした。兄のうちの一人は現在、隣のサワンナケート県で働いていますが、十分な仕送りはできず、お母さんが育てた野菜を売ったりして得

た収入を加えて月収はわずかに1,200円程度です。ファミリーは新年のお祝いの行事で事故に遭い、足を怪我しました。その後遺症が残って、お母さんを十分助けることができませんが、水くみなどできるだけの家事をします。将来は先生になりたいと思っていますが、家族の経済状態と足が悪いのに4キロ離れた中学校に歩いて通えるかどうか、ファミリーは将来のことを少し心配しながら考えています。



**ラオス・カンボジア奨学金の締め切りは7月20日です。**



### カンボジア支援者の声

## 教育支援の大切さに共感して



私たちのゴスペルクラブは「楽しい時間のために使ったお金が、別の場所で大きな力になる」を合言葉に会費の一部から支援をしています。カンボジア内戦の歴史や貧困に苦しむ生活を余儀なくされている現状を知り、未来へ可能性を広げる教育支援の大切さに共感し支援をしています。他にもチャリティイベントの開催や手芸品販売、書き損じハガキ回収なども積極的に行っています。一人でも多くの子ども達が未来へ希望を持てますように。

…………… サニーサイド・ゴスペル・横浜 大橋ゆかさん

### ラオス支援者の声

## 子どもと村人に心打たれて



12年間、ラオスの子どもを継続的に支援してきたのは、貧困国で生きている子どもたちに勉学の機会を与えるお手伝いをしたいとの思いから始まりました。実際、ラオスのブエンファナ村を訪問した時に水道や電気のない生活でも元気で向学心のある子どもたちと出会い、他人を押しのけたり出過ぎたりということもなく、控えめだが目が輝いている姿に胸打たれ、さらに村全体が大家族という雰囲気生活している印象を強く受け、このブエンファナ村と一生つき合って行こうと心に決めたのです。

…………… 長澤邦夫さん

# 日本人による日本人のためのタイ料理レストラン "One Dish Thai" 5月23日に恵比寿にオープン!

タイのインスタント食品「タイの台所」を協賛して、タイの奨学生を支援しているアライドコーポレーションがタイレストラン「One Dish Thai」を東京・恵比寿にオープン! 店内物販収益の1割をタイの奨学生に

★お問い合わせ先 (株)アライドコーポレーション 販売促進部 TEL:045-232-1717 FAX:045-232-1718



5月23日(月)に東京都恵比寿にタイ料理レストラン "One Dish Thai" がオープンしました。"日本人による、日本人のためのタイ料理" がテーマ。日本の皆様にもっと "タイ料理" を楽しんでもらうには、どうしたらいいか? その答えが One Dish Thai にあります。今までとひと味違うタイ料理を味わってみませんか?

One Dish Thai は、  
ダルニー奨学金活動を  
応援します!

## 【1】スタッフは全て日本人、"日本人が好きなタイ料理"を提供!

イタリアンや中華料理は、日本人シェフが日本人好みの味を追求することで、日本で一般化される存在となりました。そこで、One Dish Thai ではメニュー作りから店舗運営まで、敢えて全て日本人スタッフで構成。タイ料理の特徴を最大限に生かしつつ、日本の皆様により美味しく召し上がっていただける味わいを作り出しました。また、全て日本人スタッフで運営することで、タイレストランで陥りがちな、言葉が通じにくいといった問題もクリアしました。

## 【2】新鮮なタイ食材を惜しみなく使用!

運営母体は、20年に渡りタイ食材を輸入してきた "アライドコーポレーション"。その利点を最大限生かし、鮮度の高いタイ食材を惜しみなく使用しています。例えば、グリーンカレーに入っているココナッツミルクは、日本でなかなか入手困難なフレッシュタイプ。本場タイと同じ鮮度の料理をご提供します。

## 【3】辛さもパクチーの量も自由にオーダー!

タイ料理といえば『辛くてクセが強い料理』というイメージをもたれがち。そこがもちろん魅力ではあるのですが、少し刺激が強すぎるという日本人も多いです。そこで、One Dish Thai では、メニューブックに辛さとパクチーの量を表示。オーダー時に希望を言っていただければ、唐辛子の量を減らしたり、パクチー無しで調理します。逆に増やして欲しいとのリクエストも大歓迎! 自分好みの味わいをお申し付けください。

## 【4】気軽にふらっと立ち寄れる、カフェ風の明るい内装

もっと気軽にタイ料理を楽しんでいただきたい。その思いから、店内は女性一人でも気軽に入れる、カフェ風の明るい内装にしました。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

## 【店舗データ】

〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-3-12 ハイネス恵比寿1F  
TEL:03-5422-7128  
営業時間 Lunch/11:00~15:00、Dinner/17:30~23:00  
HP:www.one-dish-thai.com



## 【(株)アライドコーポレーションの寄付活動の取り組みについて】

タイと日本が将来より良い関係が築けたらと願って、2004年4月より弊社のインスタント食品「タイの台所」の提供により、タイの恵まれない子どもたちへダルニー奨学金という形で寄付をさせて頂いております。新しくオープンする「One Dish Thai」では、店舗内に商品販売ブースを設置し、さらにも商品売り上げの10%をダルニー奨学金へ寄付いたします。弊社の売り上げを通じ、タイの社会に貢献出来たら、大変嬉しく思っております。

## コラム「民際昔ばなし」(3)

理事長 秋尾 晃正

1995年の阪神淡路大震災の時、タイの中学生たちが主体となってパコマ(布)を送る運動が広がった。タイの事務所に山積みになったパコマは、ダルニー運動に参加していた大阪府豊中市の第1中から第18中のすべての中学校に届いた(現在もいくつかの中学校は支援を継続していただいている)。2004年に起きたスマトラ沖地震の被災者に対して日本で募金が集まり、タイで被災したミャンマーの子どもと出稼ぎで親を失った東北地方の子どもたちを支援した。今般の東日本大震災ではタイ、ラオス、カンボジアからは「日本カンバレ」のメッセージが届いた。タイでは奨学生も参画し、県教委やバンコクの在タイ日本人も含め484,208パーツ(約130万円)の寄付が集まった。そして、食べる米より教育への米にした「米百俵」の思想と精神に基づくダルニー運動の理念から、この寄付を97年よりダルニー運動に参加している岩手県の陸前高田第一中学校に贈った。被災者支援を通じて、4カ国の民の絆は確実に強まっている。

# 大阪府高槻市の17の中学校がタイの

## 市内全中学校の生徒会執行部が年1回、



支援活動の発表を行う生徒たち

高槻市には18の公立中学校があります。そのうち17の中学校が、書き損じハガキ等を集めてダルニー奨学金を支援しているか、過去にしたことがあります。もともと同市の中学校ではボランティア活動が盛んで、エコキャップ回収などのエコ活動を行っています。そのうちの1つがダルニー奨学金で、一番最初の中学校は早くも1999年にスタート。それが次々に他の学校に広がっていきました。その結果、同市の公立中学校17校が2010年度までに支援した奨学生は延べ619人になります。

同市には「高槻市教育研究会・中学校集団づくり部会（生徒会担当で構成）」があり、同市の中学校が全体として行えるボランティア活動を探していました。そして、3年前に同グループはダルニー奨学金に取り組むことに決め、「あなたの笑顔を見たいから」をスローガンに「スマイル運動」としてスタートしました。書き損じハガキ等の収集は個々の学校で行うのですが、毎年12月の全中学校生徒会執行部が集まる会議で日頃の生徒会活動を報告する中、どのように書き損じハガキを集めたのか、どのように地域の人々を巻き込んだのか等について発表し、アイデアを交換します。中には、タイの子どもたちの状況を調べて、映像を使って説明する中学校もあるそうです。

### 中学校の取り組み

### 北海道 猿払村立 拓心中学校

全校生徒78名の  
小さな中学校が

2001年以來、毎年750  
書き損じハガキやテレカを



支援する奨学生の写真と証書を掲げる拓心中学の生徒と先生

北海道猿払村にある拓心中学校は全校生徒78名の小さな中学校。同校は、同じ中学生を目に見える形で支援でき、しかも無駄と捨ててしまうもの（書き損じハガキや未使用テレカ）を活用できる仕組みに生徒が賛同して、2001年にダルニー奨学金の支援をスタートしました。それ以来一度も途切れることなく、少なくとも毎年750枚以上の書き損じハガキを集めています。2011年度は奨学生24人分の書き損じハガキと未使用テレカを集めました78名でこれだけの枚数を集める秘密は何でしょうか？

同校がある猿払村は人口2,805名の小さな村ですが、その村の18か所に回収ボックスを設置しています。村内の小中学校（6か所）、病院、保育所、福祉施設、農協スーパー、役場、郵便局などです。設置場所を考えるのは生徒。教頭先生が事前で電話でお願いし、生徒が3人一組で回収ボックスを持っていきます。さらに、生徒会執行部の生徒が録音し、防災無線を通じて村内に回収のお願いの放送を流してもらいます。校内の生徒向けには「執行部だより」を発行して回収を呼びかけます。10月の学校祭では、同校が支援しているタイの生徒の写真やメッセージを盛り込んだスライドをつくり、来場者に上映して支援を訴えます。回収ボックスを設置してもらったところには、生徒がお礼に伺います。同校では、子どもたちの呼びかけにきちんと向き合ってくれる猿払の大人たちのあたたかさが根底にあり、活動を支えてくれているのだと考えています。

# 中学生を支援

## 一同に会する会議でハガキ回収のアイデアを交換

「スマイル運動」のリーダー校は各校持ち回りで、1年で担当が交代します。昨年度の担当は五領中学でした。同校は2001年から書き損じハガキを収集して支援を開始。校内だけではなく、ジャスコなど近隣に回収箱を設置したり、自治会長に協力を依頼したりするそうです。数年前に全国紙の地方版に同校の活動が紹介され、市内外からたくさんの書き損じハガキや切手が集まりました。それ以来毎年、お手紙を添えて書き損じハガキや切手を送ってくれる方がいるそうです。そのうちの一人は、入院中であつたにもかかわらず、病院で働いている人をお願いしてハガキや切手を送ってくれたそうで、今でも同校と交流が続いています。



五領中に届けられた切手

## 枚以上の 集めてタイの中学生を支援

昨年度、「タイの生徒のために使ってくれるなら」とコレクションとして大事に保管しておいたテレホンカード62枚を送ってくれた方がいました。感謝の気持ちを込めて62枚のテレカを写真に撮って印刷し、その方に直接お渡しすると、今年もまたその方からテレホンカードが届きました。

今年度に奨学生24人分のハガキやテレカが集まったのは、今年2月、北海道新聞が取材をしてくれたことも大きな要因だと考えられます。新聞を見た村外の方からも郵便や宅急便でハガキが届きました。お名前の分かる方や特別な方には、お礼のお手紙を送りました。

支援が継続されている理由は、先輩の大切にしてきたものを継続させたいという強い気持ちと、同じ中学生が学校に通えないという現状を認識し、自分たちが今できることをするという支援を惜しまない態度がしっかり身についているからではないでしょうか。北海道の小さな中学校の大きな伝統が生徒の心に、支援を必要とする人のために他人と協力して何かをすることの意味を教え、その喜びを育んでいます。



はじまりました!

あなたのTポイントを  
いまずぐ寄付しよう!

## ＊ Tポイント募金 ＊

民際センターにTポイントで寄付ができるようになりました。Tポイント募金はお客様がお持ちのTポイントを使った寄付の仕組みです。皆さまからお預かりしたポイントは「1ポイント=1円」に換算され、寄付されます。

(※1ポイントからの寄付が可能です)PC(パソコン)、モバイル(ケータイ)からの寄付が可能です。

### ● Tポイントとは

TSUTAYAをはじめTポイント提携先で、利用する金額に応じて貯めることができるポイントです。貯めたポイントは、TSUTAYAや一部提携先で使ったり、提携先が発行しているポイントなどと交換することができます。

### ● Tポイント提携先

TSUTAYA店舗をはじめ、ファミリーマート、スリーエフ、ガスト、牛角、パーミヤン、ドトールコーヒーショップ、エクセルシオールカフェ、洋服の青山、スーツカンパニー、ENEOS、オートバックスグループ、ニッポンレンタカー、アート引越センター等

### Tポイント募金の方法

- ① Tポイント募金TOPページへアクセスします。URL: <http://tsite.jp/donation/>



- ② 民際センターをお選びください。「募金する」をクリックします。
- ③ Tサイトにログインします。
- ④ お持ちのポイント数の中から、寄付するポイント数を入力し、「次へ」をクリックします。
- ⑤ 確認ページで募金するポイント数をご確認の上、「確定」をクリックします。
- ⑥ 寄付完了です。

Tポイント募金はここから

↳ <http://tsite.jp/donation/>

# サポーターズNOW!

## 栃木県でドナー連絡会が発足。 栃木県のドナーの皆さん、気軽にご参加を!!

『今年2月に宇都宮市で開催された立松和平写真展を契機に、民際センターの冨田さんの骨折りで「栃木ドナー連絡会」が発足しました。宇都宮市内のタイレストランに県内のドナー9名(右写真)が集まって話し合い、小生、中田が世話人になりました。会の目的は、県内のイベントに参加したり、年に数回集まったりして、ダルニー奨学金の宣伝・普及のお手伝いをしたり、タイやラオスのこと、自分の奨学生の自慢?不満?を話し合ったりすることです。気楽に集まることのできる、楽しい会にしたいと思います。会員は県内在住・在勤のドナーです。イベントや会合の際はご連絡をします。皆さんの参加をお待ちしています』

連絡先：中田芳雅  
TEL&FAX:  
028-649-8677



## 神奈川ゆめコープが ラオスの子どもについての学習会

神奈川県で食と農を支え、作る側と食べる側をつなげる「産直」事業等を行っている生活協同組合「パルシステム神奈川ゆめコープ」(組合員約24万人)は2月25日、民際センタースタッフの冨田直樹を講師に、立松和平さんが撮ったラオスの子どもたちの写真を見ながら、ラオスの子どもたちの教育事情について学習会を開きました。神奈川ゆめコープは、2002年より組合員に呼びかけ多数の書き損じハガキを集めてダルニー奨学金を支援しています。参加した組合員の皆さんは、映像を見ながらラオスの子どもの具体的な教育状況、背景となる貧困の実態、



村の生活の様子などについて学習し、活発な質疑応答の後、集めた書き損じハガキを全員で数えました。同組合では様々な平和活動・イベントを実施しており、今回はその一環として開催されました。

## サニーサイドゴスペルクラブ横浜が 設立2周年のチャリティコンサートを開催

ダルニー奨学金を支援するサニーサイドゴスペルクラブ横浜が4月10日、横浜関内ホールで設立2周年を記念してチャリティコンサートを開催しました。参加するメンバーの会費でカンボジアの奨学生を支援していますが、今回はチケット(当日800円、前売り500円)の売り上げの一部150円をカンボジアの奨学金として提供。当日は前売り完売の大盛況で、4万円の奨学金になりました。コンサートでは、ゲストにゴスペルシンガーでNGOゴスペル広場代表のナナ・ジェントルさんを迎え、東日本大震災の被災者へのエールの気持ちを込めてナナさんが作曲した「Anthem for Unity/心をつなぐ賛歌—We walk together」を皆で歌い、被災された方に黙とうを捧げました。



## メディック投資顧問代表 早見氏の明快な語り口

「株で儲けたい」と思っているセミナー参加者に「儲けたいのなら、まず吐き出しなさい」と呼びかけて募金を募り、タイ・ラオス奨学生を支援しているメディック投資顧問代表の早見雄二郎氏。その語り口が聞きたくて、2月に開催されたセミナー会場にお邪魔しました。セミナー1部冒頭、「ラオスにはスズや金銀などの鉱石が眠っています。また、証券取引所が開設されました。ラオスには経済成長が見込まれますが、ラオスの人々がその経済成長の恩恵を得るには教育が必要です。しかし1人当たりGDPがたった700ドルのラオスには、学校に行けない子どもが大勢います。だから皆さん、ぜひラオスの子どもを支援して下さい」。そして、1部の話が終わると、早見氏自ら募金箱を持って入り口にたち、募金をしてくれた参加者に頭を下げて「ありがとうございます」。募金が集まる秘訣は、明快な語り口とお人柄にありました。



## Lao-Library 1000報告

**\*昨年度の図書セットの申込数369セット\***

ラオスの子どもたちに図書を提供するキャンペーン「Lao-Library1000」では、今年3月末までの2010年度中、369セットものお申し込みをいただきました。また、不要の本などをブックオフの買取を通じて寄付していただくリサイクル寄付では24,955円の寄付が集まりました。ご支援に対して、心よりお礼を申し上げます。個人の方たちからのご支援に加え、学校や企業からのご協力もいただき、1セット分に届くのは目前となっています。

お申込数の369セットという数字は、昨年実績の約8倍にせまる申込数ですが、図書セットを希望する現地の学校からの要望は後を絶ちません。民際センターでは、目標の1000セットを達成すべく、残り631セットの提供を目指して2011年度も「Lao-Library1000」キャンペーンを継続いたします。引き続き、皆さまからのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。  
※ご利用につきましては、下のとおり必要なものを同封の上ご請求ください。

## 地域で奨学金や図書セットを広める活動をしたい

- ① 書き損じハガキ・未使用テレカの収集
- ② 使用済みインクカートリッジの収集
- ③ パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④ 不要な本を集めてブックオフに送る
- ⑤ 募金箱を設置したい

お気軽にお電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので是非ご覧ください。

## 奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ(13分)。パネルを貸し出すこともできます。送料は負担願います。

## 個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします(3~5月と10月、学校はお休みのため訪問できません)。

## タイの奨学生と文通したい

- ① 手紙の翻訳
- ② タイの切手購入

①: タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。  
②: タイ切手セット(12回分1000円)の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。  
※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

## 民際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールで担当、関口までお問い合わせください。

## 奨学金の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

## 毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、自動振込用紙(ゆうちょ銀行)を無料で送付します(タイのみ)。



生涯、記憶に残る映像がいくつかあります。例えば、2001年9月11日、乗っ取られた旅客機が米国の貿易センタービルに突っ込んだシーンはその1つです。3月11日に発生した地震による津波が町を飲み込む映像も、間違いなくその1つだと思います。自分の町がのみ込まれていく。その中に家族や親類縁者、友人がいる。にもかかわらず、自分の町がのみ込まれていく。それを傍観するしか手がない。それは一体、どんな気持ちだったのでしょうか。その一方で、たくさんの人間の勇気に感動しました。津波が目の前に迫ってきたのに、市内放送で市民に避難の呼びかけを続けた若い女性(死亡が確認されました)。住む家が流されたにもかかわらず、お店で被災者のために無料のラーメンを作っていた夫婦。家族を失った中学生は、自分たちが通う中学校の体育館に避難してきた人々を励ましていました。彼らは自分が直面する悲しみ・苦境・危険を脇に置いて、同じ状況に身を置く他者のため一生懸命に何かをしようとしていました。彼らの行動は、人間の知恵、勇気、助け合い、励まし合う気持ちが束になって動けば、被災地の復興はできるという希望を多くの人の心に灯したはずで



一般財団法人  
民際センター

ダルニー通信 第62号 2011年6月1日発行 発行人: 秋尾晃正  
一般財団法人民際センター 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町518 司ビル301号  
TEL: 03-5292-3260 FAX: 03-5292-3510  
Eメール: info@minsai.org ホームページ: <http://www.minsai.org/>  
振替口座: 00150-0-57664  
表紙: カンボジア



新しく学校を建設する予定の村に現在建っている学校。  
外は太陽が出て明るくても中は真っ暗。



地盤検査のために、村の方に穴を掘ってもらいました。  
村の人たちも積極的に作業に加わります。

## SPOT LIGHT

プロジェクト担当スタッフの2月、3月ラオス出張報告

ラオス出張に行ってきました!

2月

小学校建設の候補地選定  
新築の校舎の最終確認  
以前建てた学校の状況確認

3月

ラオス、タイのスタッフと  
各プロジェクトの問題点の  
話し合いを実施しました。



古い学校で学ぶ子どもたち。フラッシュを焚いたので写真上では明るく見えますが、実際はとても暗いです。また、壁がとても薄いため、隣の教室の声がかなり聞こえます。



ラオス事務所での会議の様子。それぞれのプロジェクトが抱える問題を大きな付箋に書いて発表しあいました。出された問題の重要度や緊急性をマッピングしている時の写真です。出された問題の原因を探り、ラオス、タイ、日本の事務所のスタッフ合同で解決策を考えました。